

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203733		
法人名	株式会社グループホーム長楽園		
事業所名	グループホーム長楽園 (あんき)		
所在地	岡山県倉敷市菰池3丁目434番地		
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370203733-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370203733-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ランチピース
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12
訪問調査日	令和 4 年 10 月 29 日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

他の事業所よりすべての面で(医療連携・医療体制等)安心・安全と言われるような施設運営を目指し、より良い環境を整備(自由空間広く)しています。敷地・床面積・駐車場・庭園・ペット(犬・猫・金魚・メダカ)など、広々とした中ででのびのびと自分の暮らしを謳歌して頂く為に職員一同邁進致します。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

優れている点として上げられるのは、次の2点である。まず、畑で採れた野菜や地のスーパーや専門店で購入した新鮮な魚・肉を使用した手作りの食事が提供されている。二点目に、コロナ禍の中、代表者が地域のサロン会や福祉協議会に積極的に参加し、地域との繋がりを継続していることがある。工夫点としては、米や水などの備蓄食の他、災害時3日以上持ち堪えられる様に、ガスコンロや炊飯器などを整備していることがある。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を理解し、元気に生活して頂けるよう日々のケアに取り組んでいる。	玄関や事務所、廊下など、職員の目に付く場所に掲示し、周知している。また、2～3ヶ月に一回、理念の解説を全職員に回覧している。新人には、代表者や管理者が新規研修の中で伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や防災訓練への参加、ふれあいの会などに積極的に出かけ意見の交換や会話を楽しんでいるが、コロナ禍の為、中止しています。	代表者が地域のサロン会(毎月)や福祉協議会(2ヶ月に一回)に積極的に参加し、地域問題について話し合っている。中学生の職場体験やボランティア等の活動は全て中止となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での自治会や老人会に出来る限り参加し、認知症について、支援方法等意見を交換し、日々努力しています。今年はコロナ禍の為、実施していません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に開催し、行事や入居者等の報告を行い、意見や要望等の助言を頂き、介護現場に活かせるように努力につとめていますが、コロナ禍の為、中止しています。	2ヶ月に一回、民生委員や愛育委員、地域包括等の関係機関の協力のもと、事業所の行事内容や予定を報告したり、地域防災について話し合ったりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者には現状をよく知って頂き、些細な事でも相談し協力をお願いしています。その上でより良いケアサービスの向上に努めています。	代表者が窓口となり、分からない事や聞きたい事(処遇改善加算や生活保護など)があれば相談したり、介護保険について連絡があったり、密に情報交換しながら連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束の禁止対象となる行為を職員全員が理解し、見守りしながら自由に動くことが出来るよう、ケアサービスに取り組んでいる。	3ヶ月に一回、身体拘束委員会を開いている。委員会前には、全職員に聞き取り調査を行い、情報共有している。また、マニュアルを整備し、虐待についても話し合っている。	より良いケアに繋げるために、研修・勉強会の実施に期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については全職員認識しており、メンタルヘルス講習を開催し、職員のストレスがたまらない様に努めている。又、問題行動監視を目的とした監視カメラも設置している。コロナ禍の為、講習は中止しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会にて学ぶ機会を持ち、わからない事案があれば聞いたり調べたり等して、活用・支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長・介護支援専門員・管理者等立会い、契約事前に重要事項説明等、同意納得後に契約を締結しています。解約時も同様に行いません。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて家族代表等に出席して頂き、意見や要望を聞き職員で検討し、実行・実施している。又、ご意見箱を設置し利用して頂いている。コロナ禍の為、中止しています。	家族面会時や利用者がホールでテレビを観たり、寛いでいる際に、意見や要望を聞き取っている。聞き取った意見等は食事メニュー等に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があればノートに記入して頂き、内容に応じて検討を行い運営に活かしている。	意見や提案があれば、直接管理者に話をしたり、「気づきノート」に書いてもらっている。出た意見等は、希望休の取得や褥瘡対策グッズの購入等に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士の間人間関係を把握し疲労やストレスの要因にも配慮し、やりがいを持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に合わせた研修や講習に参加するようにしている。職員の気力向上にもつながっている。コロナ禍の為、研修等中止しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者での勉強会や医療連携会議に参加しており、同業者との交流する機会も増え、サービスの向上にも役立っている。コロナ禍の為、参加していません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご家族、ご本人と面接し生活や心身の状況、また、生活歴等を伺い、ご本人の思いや習慣等把握、周知に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族、ご本人と面接し不安や要望等を伺い、サービス提供に務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の思いや不安に対して出来る事は直ちに実行し対策を考慮している。また、緊急性や早急な対応が必要な方には、各関連事業所と連携を取り対応に務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちや思い等見守り、日々の生活の中で、出来ることは一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族訪問時には、面会場所にて本人とゆっくり過ごして頂けるようにしている。又、本人の日頃の状況を報告し、ご家族の思いを尊重した支援を行っている。コロナ禍の為、中止しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方など訪問あればゆっくり過ごして頂き、今後も訪問して頂けます機会を作る様にしている。コロナ禍の為、中止していますが、電話での取り次ぎはしています。	コロナ禍のため、家族等の面会は自粛しているが、電話があれば取り次いだり、職員がサポートしながら、家族宛に年賀状を出したりしている。また、外出・外泊等、家族対応による通院以外は控えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれ椅子やテーブルの位置を考えくつろいだ時間を作る。また、テーブルを囲みレクリエーションなども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても本人の安否を確認したり入院中の方には家族へ情報提供や相談の支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人話し合う時間を作り、趣味ややりたい事などの把握に努めている。	食事や入浴、朝の体操終わりに暮らしの希望や意向等を聞き取り、把握している。困難な場合は、家族に生活歴を聞いたり、ぬり絵など以前やっていたことを提供したりして検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族や本人に生活歴を聞き、安心して生活して頂けるように、日々サービスに務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調管理、それぞれの生活リズムを考慮しながら一日一日の暮らしの支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで職員と本人主体のケアを話し合い、家族にも必要に応じて意見や情報を取り入れ、介護計画を作成している。	週一回、日勤者と看護師でミーティングを行い、日々のケアについて話し合っている。モニタリングは各ユニットの管理者と計画作成担当者で行い、状態変化が無ければ半年に一回、様子を観たい時は3ヶ月に一回行っている。変化あればその都度、見直しをしている。主治医や看護師の意見等もケアプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のバイタルの記録や体調の変化等詳細に記録し、申し送りなどで状況を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する入居者の様子、職員同士意見を出し合いながら、支援、サービスを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に図書本等を置き活用したり、音楽(オカリナ)、フラダンスやお芝居など施設訪問に参加し楽しく過ごしています。コロナ禍の為、中止しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に受診希望を伺い、往診か病院受診か、どちらかの希望を伺っている。協力病院との契約で、緊急時の対応が24時間出来ている。	かかりつけ医は家族が対応し、精神科や皮膚科は職員が対応している。また、2週間に1回主治医が、週1回看護師が訪問し、24時間体制で適切な医療を提供している。歯科は必要時に連絡し、その都度訪問している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を受け健康管理と体調の変化等伝え、情報を共有し主治医、訪問看護、介護職員の連携を密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院側に情報提供書を提出し、定期的に病状を見舞うようにしている。また、退院時には家族、病院側、職員にて退院後の生活の情報共有を行っている。コロナ禍の為、面会は出来ません。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を踏まえて話し合い、意見や要望を把握し、医療との連携、治療の方針等支援している。	契約時に指針を説明し、利用者・家族の意向を大まかに把握している。終末期が近づくと、家族・主治医・看護師・管理者で話し合い、家族の意向等を再確認すると共に書面を交わし、方針を共有・決定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署職員による応急処置や救命救急の講習を受講している。コロナ禍の為、講習会は中止しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防災、防火訓練を実施している。職員は建物の構造や備品の場所、連絡の仕方など常に念頭に置いてある。コロナ禍の為、訓練等中止しています。	年2回昼夜想定の下、利用者も参加して、避難訓練を行っている。備蓄(米や水など)の他、ガスコンロや炊飯器等の備品も整備し、災害時でも3日以上持ち堪えられる様に体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格に尊厳を持ち、目線に合わせて声掛けを行っている。特に、トイレや入浴の際には言葉かけに十分配慮している。	目線を合わせた声かけやオシメ交換時の居室ドアの開閉、さん付呼称など、利用者の尊厳を守り、プライバシーに配慮した言葉かけ・対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の衣服や入浴時の衣服など、本人の自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活に支障ない程度に、本人の希望に沿った行動や活動を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後に着る服や入浴時に着る服など自分で選んでいただく。又、男性には髭剃りなどの声掛けを行う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症対策等の諸事情の中で食品衛生の認識の出来る人に限り、野菜の下処理やテーブル拭き等お願いしています。	畑で採れた野菜や地のスーパーや専門店で購入した食材を活用し、利用者の希望するメニューを提供している。また、全て職員の手作りであり、栗ご飯や竹の子ご飯、お寿司、クリスマスケーキ等、季節の料理や行事メニューを提供しながら、楽しく食事ができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い献立表に基づいた調理をし、味付けや量に配慮している。また、食事量や水分量のチェックも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・うがい・義歯の洗浄等、口腔ケア介助、支援を行っている。義歯の方は夜間消毒等も行っている。医療連携歯科の往診も可能です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、声掛けには周囲に配慮し、トイレ誘導等行う。また、尿意の残存機能の存続を促すケアを支援している。	個々の排泄記録から排泄パターンを把握し、排泄の自立を促している。また、自分でトイレに行く利用者に対しては見守りを重視し、長い時間(2時間以上)トイレに行かない利用者に対しては声かけし、トイレ誘導を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方にはかかりつけ医と相談対応し、一時的の方には、体操や運動・食べ物の工夫・水分摂取等に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回午前・午後と入浴出来ます。本人の希望を聞き、体調をみながら、出来る限り入浴をして頂いています。羞恥心・恐怖心・安全には十分注意している。	週3回の入浴支援を基本としている。毎日入浴したい利用者もいるが、100%対応できていない。入浴温度を一定に保ち、ゆず湯などで季節感を取り入れながら、楽しく入浴できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の悪い方や感染症の方は自室にて過ごして頂き、又、一日中離床が困難な方には、午後短時間臥床して頂くなど臨機応変に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に処方薬の変更があれば担当医と相談、申し送りノードにて周知、服薬時には名前の確認も細心の注意をしている。また、薬剤師による薬の勉強会も開催している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る仕事、楽しくやれる仕事の役割分担等把握し、声掛け・お手伝いをして頂く。又、天気の良い日には庭園で茶会など、気分転換等の支援をしています。今年はコロナ禍の為、実施していません。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	風邪など感染の恐れの間中は外出を避け、病院医療機関受診・真夏日・真冬日の外出も出来るだけ避けるようにしている。今年はコロナ禍の為、実施していません。	天気の良い日は、ベランダでお茶を飲んだり、玄関で日向ぼっこをしたりしている。コロナ禍のため、定期的に家族と病院受診する以外は、一緒に外出・外泊することは中止している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の自己管理は紛失や多々トラブルもあり、ご本人・ご家族、相談・了承の上、一括管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人の申し出があればご家族の了承を得た上、支援を行っている。手紙や年賀状を書ける方は書いて頂き、ご家族に送っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内は広々としており車椅子でも気兼ねなく移動でき、共用部等も明るい雰囲気にするよう配慮している。又、それぞれ季節に沿った展示物などにも配慮している。	ホールの雰囲気を変えたり、トラブルを未然に防ぐため、テーブルの配置に十分配慮している。また、職員が持参した花や園庭で採れた花を飾ったり、利用者と一緒に作成した季節の展示物を飾りながら、居心地良い空間を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを共用空間に置き、それぞれ気の合った利用者同士で気兼ねなくつろいで頂くよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時などに、思い出の品や使い慣れた好みの物など持って来て頂くよう努めています。	馴染みのタンスや使い慣れた毛布、お気に入りのお孫さんの写真などを持ち込んでいる利用者や、シンプルにすっきりとした部屋で過ごしている利用者など、個々の居心地の良さに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は、本人が判りやすい様に物を置き、共用部は其々名前や目印を付けています。危険に繋がる様な物は避け、出来ない事への支援や見守りを心掛けている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203733		
法人名	株式会社グループホーム長楽園		
事業所名	グループホーム長楽園 (のんき)		
所在地	岡山県倉敷市菰池3丁目434番地		
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370203733-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370203733-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社プランチピース		
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 4 年 10 月 29 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

他の事業所よりすべての面で(医療連携・医療体制等)安心・安全と言われるような施設運営を目指し、より良い環境を整備(自由空間広く)しています。敷地・床面積・駐車場・庭園・ペット(犬・猫・金魚・メダカ)など、広々とした中ででのびのびと自分の暮らしを謳歌して頂く為に職員一同邁進致します。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

優れている点として上げられるのは、次の2点である。まず、畑で採れた野菜や地のスーパーや専門店で購入した新鮮な魚・肉を使用した手作りの食事が提供されている。二点目に、コロナ禍の中、代表者が地域のサロン会や福祉協議会に積極的に参加し、地域との繋がりを継続していることがある。工夫点としては、米や水などの備蓄食の他、災害時3日以上持ち堪えられる様に、ガスコンロや炊飯器などを整備していることがある。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各所に理念を表示し理解して日々のケアに取り組んでいる	玄関や事務所、廊下など、職員の目に付く場所に掲示し、周知している。また、2～3ヶ月に一回、理念の解説を全職員に回覧している。新人には、代表者や管理者が新規研修の中で伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	偶数月に運営推進会議を開催して毎回多数の出席をいただき親交を深めている。コロナ前までは地域の行事に積極的に参加し職員もサロン会とうにさんかしていた。	代表者が地域のサロン会(毎月)や福祉協議会(2ヶ月に一回)に積極的に参加し、地域問題について話し合っている。中学生の職場体験やボランティア等の活動は全て中止となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会や老人会に出席して認知症の理解を深めてもらったりご近所の方々の相談に乗っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に開催し毎回行事、入居状況の報告をしご意見要望を聞き取り現場に活かせるようにしています。	2ヶ月に一回、民生委員や愛育委員、地域包括等の関係機関の協力のもと、事業所の行事内容や予定を報告したり、地域防災について話し合ったりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者と電話連絡や窓口で相談しながら現状を報告している。それによりより良サービスが提供できるように努めています。	代表者が窓口となり、分からない事や聞きたい事(処遇改善加算や生活保護など)があれば相談したり、介護保険について連絡があったり、密に情報交換しながら連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化検討委員会を設けケースによって職員全員が把握し身体拘束を行わなくても良いように努めている。	3ヶ月に一回、身体拘束委員会を開いている。委員会前には、全職員に聞き取り調査を行い、情報共有している。また、マニュアルを整備し、虐待についても話し合っている。	より良いケアに繋げるため、研修・勉強会の実施に期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	できるだけ職員のストレスがたまらないようにお互いにコミュニケーションを取りながら、それぞれの行動に責任を持ち日々のケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政の福祉援護と相談しながら成年後見制度を学び必要な利用者に繋げ、スムーズに制度の活用が行えるようにし最後まで支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、介護支援専門員、管理者の立会のもと契約前に重要事項説明、同意書等の話し合いをし、納得をいただき契約の締結を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎回の面会時に意見や要望を聞き取り各々検討を行い運営に活かすようにしている。	家族面会時や利用者がホールでテレビを観たり、寛いでいる際に、意見や要望を聞き取っている。聞き取った意見等は食事メニュー等に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見があればノートに記入したり、緊急の場合はその場で対応し対応方法をノートに記入している。	意見や提案があれば、直接管理者に話をしたり、「気づきノート」に書いてもらっている。出た意見等は、希望休の取得や褥瘡対策グッズの購入等に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士の人間関係に注意しストレスの軽減に努めやりがいを見出せるように助言している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	このところのコロナ化で思うようにいかないが講習や研修があれば参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	医療連携の講習会や勉強会に参加させられたり同業者と意見交換をしたりしてサービスの向上に勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にはご家族と綿密に面談しご本人とご家族のご要望をすり合わせ入所後の生活の不安を取り除き信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前及び入所直後は不安材料が多いため度々面接をし一つづつ解決しながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームにおいては入所するということが前提になっており使えるサービスと使えないサービスの説明をしっかりと説明し理解得られるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で見守りをしながらできることはしていただきできる喜びを共に分かち合えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	最近は面会も思うようにならないが面会場所を工夫をして短時間でもご本人と合っていたき後にご家族と日常生活等の話をするようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は中々難しい状況にあり電話でのお話をさせていただきようにしている。	コロナ禍のため、家族等の面会は自粛しているが、電話があれば取り次いだり、職員がサポートしながら、家族宛に年賀状を出したりしている。また、外出・外泊等、家族対応による通院以外は控えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂での配置を配慮し楽しい食事時間が取れるようにまた体操、レクに参加しやすいように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了していてもご家族と連絡をとり近況を尋ねたりしました入院中の方の情報共有をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話のなかからご本人の希望や意向を見だし反映できるように心掛けている。	食事や入浴、朝の体操終わりに暮らしの希望や意向等を聞き取り、把握している。困難な場合は、家族に生活歴を聞いたり、ぬり絵など以前やっていたことを提供したりして検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご本人の生活歴趣味等を聴取し、それに基づいた毎日が送っていただけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックを行い医師、看護師と連絡をしながら毎日の生活がスムーズにおくれるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや日々の会話の中からニーズを引き出したり訪問看護師、主治医共相談をしながら介護計画を作成している。	週一回、日勤者と看護師でミーティングを行い、日々のケアについて話し合っている。モニタリングは各ユニットの管理者と計画作成担当者で行い、状態変化が無ければ半年に一回、様子を観たい時は3ヶ月に一回行っている。変化あればその都度、見直しをしている。主治医や看護師の意見等もケアプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	それぞれの日々のバイタルチェック、排泄の状況などを個々に記録し申し送り等を重ねて共有しながら見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時やご家族との電話連絡等で出てきたニーズに真摯に取り組みその方に合ったサービスを提供できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ化により他から出入りは難しく倉敷市からの定期的な図書の本の貸し出しを行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の意向を聞き往診か病院での受診かを決めて協力病院と連携を取りながら24時間切れ目のない対応を行っている	かかりつけ医は家族が対応し、精神科や皮膚科は職員が対応している。また、2週間に1回主治医が、週1回看護師が訪問し、24時間体制で適切な医療を提供している。歯科は必要時に連絡し、その都度訪問している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師や往診担当の看護師と24時間体制での対応をし、情報共有をして適切な受診ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはこちらからの情報提供を提出し、入院中はケースワーカーと密に連絡し合い、早期に退院できるよう相談し退院時には今後のことについて相談するようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期医療については入所時に大まかに決めていて重度化した時は本人、家族、医師、看護師、現場の職員と幾度も話し合いをして対応している、	契約時に指針を説明し、利用者・家族の意向を大まかに把握している。終末期が近づくと、家族・主治医・看護師・管理者で話し合い、家族の意向等を再確認すると共に書面を交わし、方針を共有・決定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ前は毎年消防署員を招きAEDの使用や救命救急の講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署による避難訓練を実施し防火用品の使用や連絡の方法などの実際に行っている	年2回昼夜想定の下、利用者も参加して、避難訓練を行っている。備蓄(米や水など)の他、ガスコンロや炊飯器等の備品も整備し、災害時でも3日以上持ち堪えられる様に体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格の尊重を重んじて声掛けや特に排泄介助、入浴介助には羞恥心の配慮に気を配るようにしている。	目線を合わせた声かけやオシメ交換時の居室ドアの開閉、さん付呼称など、利用者の尊厳を守り、プライバシーに配慮した言葉かけ・対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常に着用する洋服は自分の好みの物を着ていただくようにし、また入浴時間は午前か午後に自分で選んで入っていただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活、日常の生活に支障のないように本人の希望に沿った活動をしていただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回程度町の美容院から美容師さんに来ていただき会話を楽しみながら本人の希望に沿ったカットをしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ化のため食事に関することは今していただけないが以前はテーブルを拭いたり食材の下処理をしていただいていた。	畑で採れた野菜や地のスーパーや専門店で購入した食材を活用し、利用者の希望するメニューを提供している。また、全て職員の手作りであり、栗ご飯や竹の子ご飯、お寿司、クリスマスケーキ等、季節の料理や行事メニューを提供しながら、楽しく食事ができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事の摂取量のチェックをしている。摂取量の少ない方には主治医と相談の上補助食品を提供できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、うがい義歯の洗浄、ハミングッド等による口腔内ケアを行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、日中は全員トイレ誘導を各時間ごとに行っている。	個々の排泄記録から排泄パターンを把握し、排泄の自立を促している。また、自分でトイレに行く利用者に対しては見守りを重視し、長い時間(2時間以上)トイレに行かない利用者に対しては声かけし、トイレ誘導を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	頑固な便秘の方は主治医と相談し緩下剤等を処方してもらっているが普段、牛乳、ヨーグルト、納豆等を積極的に食すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回午前と午後入浴していただいています。全員家庭浴槽の中に入っていたくように工夫しています。	週3回の入浴支援を基本としている。毎日入浴したい利用者もいるが、100%対応できていない。入浴温度を一定に保ち、ゆず湯などで季節感を取り入れながら、楽しく入浴できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良や感染の恐れがある方にはそれぞれのお部屋で過ごしていただきます。夕方からは落ち着いて過ごしていただけるように配慮するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期処方薬については薬の説明書を身近な所に置き熱発時等臨時薬については口頭や申し送り簿に記入している。服薬には複数の人が確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方ができること、それぞれのできることがあり役割をして同じ事は日割りにして多量の場合は2～3人で雑談をしながら楽しくできるyぶに援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近年はコロナで行えないが、帰られる方もご家族との受診のために外出時に帰りには外食をして帰られる方もおられます。	天気の良い日は、ベランダでお茶を飲んだり、玄関で日向ぼっこをしたりしている。コロナ禍のため、定期的に家族と病院受診する以外は、一緒に外出・外泊することは中止している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	どうしても手元に自分でお金を持っていたい方にはご家族と相談の上いつもハンドバックに入れて持ち歩いていただけるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたり、かかってきた電話に出たりの支援はしている。毎年ご家族にそれぞれ年賀状を書いてもらったり代筆をして出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は広々と圧迫感のない空間が広がっており、廊下では毎日歩行訓練をしている。壁面には季節ごとに展示物が変わり、ホールに雛人形を飾ったりしている。	ホールの雰囲気を変えたり、トラブルを未然に防ぐため、テーブルの配置に十分配慮している。また、職員が持参した花や園庭で採れた花を飾ったり、利用者と一緒に作成した季節の展示物を飾りながら、居心地良い空間を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい方には1人ずつのスペースがあり、またお友達と一緒にいいかたは複数でソファでくつろいでいただけるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に思い出の家具や物を持ってきていただくようにしている。また茶碗、箸、寝具は今まで使っていた物を持って来てもらうようにしている。	馴染みのタンスや使い慣れた毛布、お気に入りのお孫さんの写真などを持ち込んでいる利用者や、シンプルにすっきりとした部屋で過ごしている利用者など、個々の居心地の良さに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内はそれぞれに本人がわかりやすく、安全に動けるように配置等に気を配り体調の変化によってレイアウトも替えるようにしている。		